

24時間体制で重症患者を集中管理

集中治療部は大手術を受けられた方や、重篤な疾患によって生命の危機に陥られた方を収容し、各診療科との協力の下に集中的な治療と看護を行っています。



診療体制

集中治療専従スタッフ3名、麻酔科との協力で24時間対応。患者担当科医師に加え、各専門診療科の協力で包括的、集学的な診断・治療を行っています。また、患者2名に対して1名の看護師を配置し、きめ細かいケアを行っています。

対象疾患

例えば、心臓、食道、肝臓、脾臓などの大手術や、病棟での管理が難しい合併症を有する症例の術後管理。病棟で発症した呼吸不全、循環不全、凝固障害、敗血症、ショック、多臓器不全など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間入室者数は約700名で、手術後の入室が約500名、病棟からの入室が約200名です。人工呼吸、気管支鏡検査、エコー検査、各種血液浄化法、脳低温療法などを患者の病態に応じて行っています。



最先端の内視鏡を使って体の中から低侵襲で病気を診断し治療します

消化器疾患、呼吸器疾患の診断と治療に内視鏡は欠かせず、病気の早期発見から、各種疾患の病態把握、そして根治から症状緩和のための治療まで、その幅は極めて広く、消化器および呼吸器診療において極めて重要な役割を担っています。

診療体制

消化器内視鏡部門は、消化器内科が中心に月曜から金曜まで終日検査と治療を行っています。気管支鏡部門は呼吸器内科と呼吸器外科が分担して検査と治療を行っています。緊急内視鏡は24時間体制で受け入れを行っています。院内の内視鏡洗浄と保守管理をセンター化し、最先端の安全・感染対策を実践しています。

対象疾患

咽喉頭癌、食道（食道炎、癌）、胃・十二指腸（炎症、潰瘍、癌）、小腸（炎症、出血）、大腸（ポリープ、癌、潰瘍性腸炎、クローン病）、胆道（結石、癌）、脾臓（炎症、癌）、肺・気管支（炎症、癌、慢性呼吸器疾患）などの診断と治療。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

平成22年度の通常内視鏡検査（上部、下部、超音波内視鏡、逆行性膵胆管内視鏡、気管支鏡含む）は、9,500件以上、内視鏡的腫瘍切除（咽頭、食道、胃、大腸）約360件、気管支鏡検査は約460件を行っています。また、苦痛のない内視鏡検査・処置ができるように希望者には鎮痛剤・鎮静剤を使用しています。

高度医療の取り組み・研究

①食道癌化学放射線療法後の遺残・再発に対する救済レザフィリンPDT

食道癌に対する化学放射線療法後の残存病変に対する新しい低侵襲救済治療として、新しい光感受性物質と半導体レーザーを用いた光線力学療法（PDT）の開発を行っています。



②肝移植後の胆道合併症に対する内視鏡治療

世界屈指の生体肝移植を実施する肝胆膵・移植外科と協力、肝移植後の胆道合併症に対し内視鏡的治療を行い、移植医療を全面的にバックアップしています。

③超音波気管支鏡（EBUS）を用いた傍気道病変の診断

腫脹した縦隔リンパ節や気道に接する肺腫瘍、縦隔腫瘍に対する、低侵襲かつ安全な診断法としてEBUSを用いた検査を積極的に行っております。従来の縦隔鏡と異なり、局所麻酔で行えるというメリットがあります。

